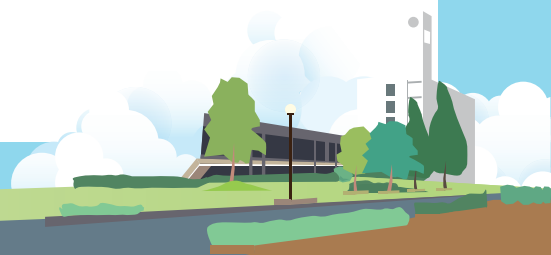


Miyuki Letter

2026 July
issue

No. 113



こども学科

こども学科の学生が企画・運営
近隣小学生を招いた大学遠足



3年 黒田 奈保実
こども学科では、4月下旬から5月上旬にかけて、加茂小学校と御幸小学校の4年生を招いた大学遠足がありました。大学遠足は初等外国語の授業の一環として実施されました。こども学科で小学校教諭を目指している2・3・4年生が協力し合いながら、小学生へ大学見学や英語の授業をおこないました。前半では2・3年生が中心となり、小学生を大学の図書館や教室、トレーニングルームへ案内しました。後半では4年生が中心となり、自分たちで考えた英語の授業をおこないました。大学見学では、大学の教室にあるマイクを

実際に使ってみせたり、スクリーンを動かしたりして、小学校とは違った大学の設備を紹介しました。英語の授業は2種類用意され、クラスごとに「名探偵コナン アガサ博士からの挑戦状」「たまご戦士からのおねがい」をテーマとした授業をおこないました。指導案などは、昨年小学校実習を経験した4年生が1ヶ月前から準備を始め、当日もスムーズな授業運営を見せられました。参加した小学生たちは目を生き生きとさせ、友達と協力して授業を受けてい

福祉学科

みゆきよりみちかふえ(平大認知症カフェ)10周年のあゆみ

教授 中司 登志美 講師 下田 旭美

今年10月に10周年を迎える「みゆきよりみちかふえ(平大認知症カフェ)」は、大学と御幸町住民がともに育ててきた取り組みです。前身となる福山市新市町の「ガーデンカフェ」は2014年、本学教員とそのゼミ生が中心となり、社会福祉法人・医療機関・地域包括支援センターなどの専門職が主体となって始まりました。誰もが安心して集える場づくりを、大学が間に入り、進めてきたことが活動の基盤となっています。その経験を生かし、2016年に大学を会場とした認知症カフェみゆきよりみちかふえがスタート。開かれた大学という場に、自治会や住民、介護事業所、専門職、学生が自然に集まり、認知症について学び語り合う場として発展してきました。教員は専門性を提供し、学生は運営を通して地域とつながるなど、大学が地域の「コーディネーター」として役割を果たしてきたことが、この10年を支えています。今年度第1回(5月23日)は、開設当初から続く認知症サポーター養成講座を実施し、キャラバンメイトの進行で住民・学生・専門職が認知症について学び語り合う場となりました。大学が地域とともに歩んできた10年を胸に、学びと支え合いの場を育んでいきます。



昔のみゆきよりみちかふえ



10年目のみゆきよりみちかふえ

経営学科

地域勉強会「新廉塾」のお誘い

教授 小川 長

先日発表された2025年国勢調査の速報では、東京都と沖縄県以外の45道府県で人口が減少したと報じられています。広島県もその例外ではなく、福山市を始めとする備後地域の市町村でも軒並み人口が減少しており、今後の地域社会・経済の衰退が懸念されます。こうした地域の衰退を食い止める地域を存続させるためには人任せではなく、自分たちの地域の未来は、その地域の人たち自身が主体的に考えていかなければならないと思っています。こうした考えに基づいて、昨秋から毎月1回、JR神辺駅の近くにある大学のサテライトキャンパス「神な備」にて、「新廉塾」を開催しています。これは、地域の未来を自分たちの課題として捉え、その解決策を自分たちで考える場であり、毎回、参加者の方々と意見交換を行っている勉強会です。この「新廉塾」という名称は、江戸時代の儒学者、菅茶山先生が神辺の地に開いた「廉塾」に因んだものです。「廉塾」における茶山先生の教育によって、当時の人心が鎮まり、民意が向上したことにあやかりたいと命名しました。「新廉塾」は、どなたでもご参加いただけますので、どうぞお気軽にお越し下さい。



会場風景

福山平成大学 経営学部
小川教授の

新廉塾

地域の魅力と
備後の未来は
誰が描くのか
残したい文化はある
どんな新しいことがあるか
社会に貢献するとは
どんな思いがあるか
地域づくり
人づくり
地域づくり

参加費 無料
申し込み 要
申し込み先 小川教授
申し込み先 小川教授

2025年10月～2026年9月
毎月第3金曜日
18時～20時
会場 小川 長 福山平成大学 経営学部教授
お問い合せ びん二共創会事務局 TEL: 0845-22-2214
主催 福山平成大学 経営学部 小川教授 TEL: 084-972-0001 (代表)

開催回数	開催日時
第1回	10月24日(金)
第2回	11月21日(金)
第3回	12月19日(金)
第4回	1月16日(金)
第5回	2月20日(金)
第6回	3月27日(金)
第7回	4月17日(金)
第8回	5月15日(金)
第9回	6月19日(金)
第10回	7月17日(金)
第11回	8月21日(金)
第12回	9月18日(金)

看護学科

地域を歩き、地域を学ぶー福山市における地区踏査演習ー

教授 齋藤 公彦



保健師課程の学生は、3年次前期に公衆衛生看護技術論を履修します。本演習の地区踏査の演習(フィールドワーク)では、学生が事前に調べた内容を基に、実際に福山市内を歩き、地域の歴史や文化、生活環境について理解を深める機会となりました。地域には長い歴史や人々の暮らしの積み重ねがあることを学ぶ様子がみられました。また、道路や住宅、公共施設、公園の配置だけでなく、人の流れや地域住民の交流の様子にも目を向けることができていました。さらに「子育てサービス」の視座からの見学や、こども・若者世代の居場所づくりについて説明を受け、地域には世代に応じた支援や交流の場が必要であることを学びました。実際に地域を歩き、現地を訪れることで、地図や資料だけでは把握しにくい地域特性や生活の様子を体感的に捉えることができ、地域アセスメントにつながる学習となりました。今回の演習を通して、地域を多面的に理解し、住民の生活背景や健康課題を考えながら支援につなげていく視点の大切さを感じることができた様です。

健康スポーツ科学科

高校保健体育科教員を目指して
ーチャレンジ受験突破とこれからの目標ー

4年 成清 拓夢

私は将来、高校保健体育科教員を目指しており、採用試験の現役合格を目標として頑張っています。大学入学後は、3年次でのチャレンジ受験突破を目標に掲げ、2年次の秋から本格的に試験勉強を開始しました。1日最低2時間の学習を継続するとともに、大学で実施される教師塾にも積極的に参加しました。その結果、3年次に受験した広島県教員採用試験では一次試験に合格することができました。現在は、広島県以外の採用試験対策に加え、二次試験に向けて面接・実技・模擬授業の練習に力を入れています。また、私は「教員になること」がゴールではなく、「教員になってからどのように成長し続けるか」が大切であると考えています。そのため、近隣学校での授業見学や部活動指導の機会を大切にし、実践的な学びを深めています。その他にも、学生リーダーや所属している軟式野球部の主将などを務め、その経験を通して、人をまとめるために必要な行動力や責任感、周囲を支える姿勢を学ぶことができました。今後、教員採用試験の現役合格を目指すとともに、生徒の挑戦を後押しできる教員になれるよう、努力を続けていきたいと考えています。



令和8年度 入学式

4月4日(土)、在学生の司会進行のもと、令和8年度入学式を挙行し、多くの新入生を迎えました。

式典では富士学長より、学びへの挑戦を力強く後押しするメッセージが述べられ、続いて入学生総代が宣誓文を朗読しました。

教職員・在学生一同、皆さんの門出を心より歓迎いたします。



学長杯争奪競技大会報告



競技の結果

ソフトボール

5月15日に学長杯争奪競技大会が開催されました。

ソフトボール9チーム、ソフトバレーボール8チームの参加があり学生・教職員の熱き戦いが繰り広げられました。(大会関係者約230名)



優勝 健康スポーツ科学科A
準優勝 健康スポーツ科学科B

ソフトバレーボール



優勝 健康スポーツ科学科
準優勝 こども学科

令和8年度 マナー向上キャンペーン実施

令和8年5月21日にキャンパスマナー向上を図り、学友会・学科・サークル・教職員総勢50人が協力し学内美化に努めました。



令和8年度 サークル活動記録

2026/5/25現在

男子バレーボール部			
第103回中国大学バレーボールリーグ戦春季大会	4/18～5/17	広島大学体育館 他	優勝
第70回中国四国学生バレーボール選手権大会	5/23～5/25	岡山大学第2体育館 他	優勝
軟式野球部			
第31回中国地区大学軟式野球連盟春季リーグ戦	3/25～5/9	福山市民球場 他	優勝 第6回全日本大学軟式野球選抜大会出場
陸上競技部		ソフトテニス部	
第80回中国四国学生陸上競技対校選手権大会 5/15～5/17 広島広域公園陸上競技場		第48回中国学生ソフトテニスリーグ戦大会 第70回中国学生ソフトテニス優勝大会 第28回中国学生ソフトテニスシングルス選手権大会 4/29～5/3 島根県立浜山公園テニスコート	
男子 110mH 第3位 村上 大心(健スポ3) 男子 5000mW 第2位 池田 健人(大学院2) 女子 1500m 第1位 井上 菜名(健スポ2) 女子 棒高跳 第1位 森迫 菜羽(健スポ3) 優勝者は第95回日本学生陸上競技対校選手権大会に出場		男子団体 優勝 女子団体 優勝 男子ダブルス 優勝 杉本(健スポ3)・武山(健スポ2) 女子ダブルス 優勝 福地(健スポ2)・正岡(こども2) 男子シングルス 第3位 定中(経営1) 女子シングルス 優勝 正岡(こども2) 全日本大学ソフトテニス王座決定戦に出場	

令和8年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)採択一覧

所 属	職 名	氏 名	研 究 種 目	研 究 課 題 名	研 究 期 間	交 付 金 額
経営学部	教授	市瀬 信子	基盤研究(C)	清代前半期の杭州詩壇を基盤として見る袁枚の文学活動とその詩観に関する研究	令和6年度～令和 8年度	3,380,000円
経営学部	准教授	兒子 正治	若手研究	ベトナム、インドネシア、タイ(ASEAN地域)、日本のZ世代IT人材の労働価値観分析	令和7年度～令和10年度	4,810,000円
福祉健康学部	講師	下田 旭美	基盤研究(C)	海外展開する高専教育モデルの学修成果に関する研究－タイの事例を中心に－	令和7年度～令和10年度	4,680,000円
福祉健康学部	教授	田中 宏和	基盤研究(C)	学校現場における児童・生徒が有する著作権の保護の在り方	令和6年度～令和 9年度	2,340,000円
福祉健康学部	講師	浦 佑大	基盤研究(C)	フットボール文化を基盤とした状況判断のメカニズム解明－日本とスペインとの比較検討－	令和8年度～令和12年度	2,800,000円
看護学部	教授	古川 秀敏	若手研究	認知症をもつ人の介護者のメンタルヘルスへのソーシャルキャピタルの影響と介入開発	令和8年度～令和11年度	3,400,000円
看護学部	講師	福田 久仁子	基盤研究(C)	精神科病院における虐待相談の体制に関するガイドライン開発と展開	令和8年度～令和12年度	3,300,000円
看護学部	助教	榊 美穂子	基盤研究(C)	地域包括ケア病棟における退院支援モデルの構築	令和8年度～令和12年度	3,400,000円

令和8年度 ■ 福山平成大学 公開講座 ■

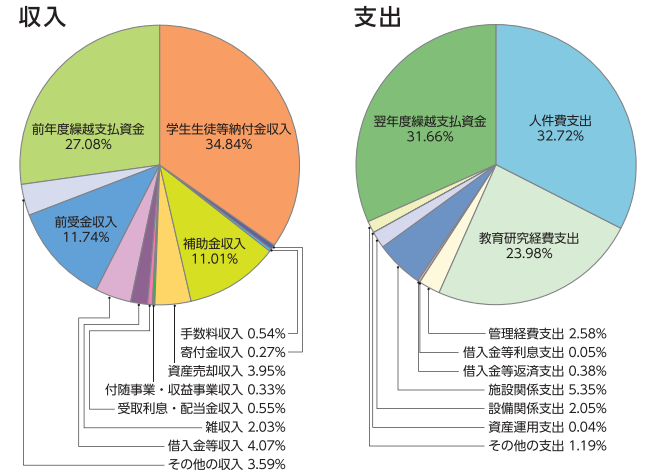
- テーマ 知る喜び、学ぶ楽しさを共有する
- 日時 全5回(8月27日・9月3日・10日・17日・24日)
18:30～19:30
- 会場 福山平成大学 7号館大講義室
- 受講対象者及び定員 一般市民 250名
- 受講料 無料
- 問い合わせ先 庶務課



- | | | |
|-----------|----------------------------------|--------------------|
| 第1回 8月27日 | 地域の底力復活のためのマネジメント | 経営学科 小川 長 教授 |
| 第2回 9月 3日 | 自ら命を守る力を育てる防災学習～情報を活用し、命をつなぐ判断を～ | こども学科 藤江 浩子 講師 |
| 第3回 9月10日 | 家族も施設もラクになるー介護テクノロジーが実現するやさしいケアー | 福祉学科 大塚 和美 助教 |
| 第4回 9月17日 | 保健医療の現状 | 看護学科 齋藤 公彦 教授 |
| 第5回 9月24日 | 体育・スポーツで育つカー身体を通して学ぶ楽しさー | 健康スポーツ科学科 阿部 直紀 講師 |

資金収支計算書 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)(単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	5,129,294,841	人件費支出	4,082,449,971
手数料収入	79,893,747	教育研究経費支出	2,992,121,411
寄付金収入	39,422,791	管理経費支出	322,200,968
補助金収入	1,621,185,718	借入金等利息支出	5,843,878
資産売却収入	580,920,205	借入金等返済支出	47,760,000
付随事業・収益事業収入	49,104,830	施設関係支出	667,804,759
受取利息・配当金収入	81,450,250	設備関係支出	255,398,680
雑収入	298,484,806	資産運用支出	7,993,644,017
借入金等収入	600,000,000	その他の支出	1,365,857,230
前受金収入	1,728,433,100	資金支出調整勘定	△ 70,380,546
その他の収入	9,734,275,040		
資金収入調整勘定	△ 2,317,499,995		
前年度繰越支払資金	3,988,252,633	翌年度繰越支払資金	3,950,517,598
収入の部合計	21,613,217,966	支出の部合計	21,613,217,966



上記のグラフは次のとおり調整しています。
① 資金収入・資金支出調整勘定を除外
② その他の収入・資産運用支出・その他の支出のうち、資産運用・預り金・仮払金に係るものは収入と支出を相殺

資金収支計算書

資金収支計算書は、企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いもので、学校法人が教育研究その他の諸活動を行うことにより生ずるすべての資金収支の内容を示しています。学校法人の資金収支計算書では、前受金、未収入金、未払金、前払金を加えたもので、個々の収入金額、支出金額は必ずしも企業会計におけるキャッシュ・フローとなっておりませんが、別途「資金収入調整勘定」と「資金支出調整勘定」を設けて、これら前受金等を調整することになり、総額としてはキャッシュ・フローを示しています。

科目の説明	
収入の部	
学生生徒等納付金収入	授業料、入学金、実験実習料等の収入
手数料収入	入学検定料、休学者在籍料、各種証明書の発行手数料等の収入
寄付金収入	金銭及びその他の資産を寄贈者から贈与された収入
補助金収入	国または地方公共団体から交付される補助金収入
資産売却収入	帳簿残高のある固定資産等の売却による収入
付随事業・収益事業収入	補助活動、附属事業、受託事業および収益事業による収入
受取利息・配当金収入	預金、有価証券等の利息や配当金による収入
雑収入	上記以外の収入で学校法人の負債とならない収入
借入金等収入	返済期限が貸借対照日後1年を超えて到来する長期借入金と1年以内の短期借入金及び学校債の発行による収入
前受金収入	翌会計年度以後の諸活動に対応する収入を当該会計年度において資金収入したものの
その他の収入	上記以外の収入で、各種特定資産の取崩収入及び預り金等の収入
資金収入調整勘定	当年度の諸活動に対応する収入ですが、資金の収入が当年度中に行われず、前年度以前または翌年度以降となる項目を調整する勘定科目
支出の部	
人件費支出	教職員人件費、役員報酬、退職金に係る支出
教育研究経費支出	教育研究活動に要する経費で、消耗品費、光熱水費、旅費交通費、奨学費、通信費、印刷製本費等の支出
管理経費支出	教育研究活動以外の経費で、管理運営、学生募集等に要する支出
借入金等利息支出	借入金及び学校債に係る利息支出
借入金等返済支出	借入金及び学校債に係る返済支出
施設関係支出	土地、建物、構築物等の固定資産の取得に係る支出
設備関係支出	機器備品、図書、車両等の取得に係る支出
資産運用支出	各種特定資産への繰入支出、有価証券の取得に係る支出
その他の支出	上記以外の支出で、前払金、仮払金等に係る支出
資金支出調整勘定	当年度の諸活動に対する支出であるが、実際の資金の支出が前年度以前にあったものまたは、翌年度以降になるもの

財産目録 (令和8年3月31日現在)(単位：円)

一 資産額		
(一) 基本財産		31,747,838,845
1 土地	339,096 m	6,905,160,619
(1) 校地	194,189 m	3,709,234,824
(2) 運動場	101,032 m	2,672,325,891
(3) その他	43,875 m	523,599,904
2 建物	156,212 m	16,784,218,539
(1) 校舎	128,778 m	15,106,483,543
(2) 体育館	9,950 m	734,045,962
(3) その他	17,484 m	943,689,034
3 構築物		669,696,385
4 教育研究用機器備品	4,264 点	2,338,265,057
5 管理用機器備品	131 点	21,269,537
6 図書	460,800 冊	4,986,591,916
7 車両	31 台	677,027
8 船舶	2 艇	5,374,069
9 電話加入権		3,048,426
10施設利用権		600
11保証金		33,316,670
12敷金		220,000
(二) 運用財産		27,650,838,746
1 現金預金		3,950,517,598
(1) 現金		5,134,986
(2) 普通預金		3,715,514,914
(3) 当座預金		13,698,944
(4) 定期預金		210,000,000
(5) 郵便振替貯金		6,168,754
2 積立金		23,335,987,215
第2号基本金引当特定資産		500,000,000
(1) 普通預金		500,000,000
退職給与引当特定資産		1,647,058,437
(1) 普通預金		1,647,058,437
減価償却引当特定資産		14,412,905,238
(1) 普通預金		7,330,937,705
(2) 定期預金		1,000,000,000
(3) 有価証券		6,081,967,533
校舎建設等引当特定資産		3,400,969,074
(1) 普通預金		1,904,270,976
(2) 有価証券		1,496,698,098
創設準備引当特定資産		3,375,054,466
(1) 普通預金		1,875,172,465
(2) 定期預金		500,000,000
(3) 有価証券		999,882,001
3 未収入金		329,063,795
4 前払金		35,045,798
5 仮払金		224,340
合 計		59,398,677,591

二 負債額	
(一) 固定負債	
1 長期借入金	624,990,000
2 長期未払金	106,069,223
3 退職給与引当金	1,647,058,438
(1) 役員	2,912,057
(2) 教員	1,267,850,189
(3) 職員	376,296,192
(二) 流動負債	
1 短期借入金	47,760,000
2 未払金	80,187,486
3 前受金	1,728,433,100
4 預り金	120,231,148
5 賞与引当金	251,362,653
(1) 役員	1,940,335
(2) 教員	196,283,052
(3) 職員	53,139,266
合 計	
4,606,092,048	

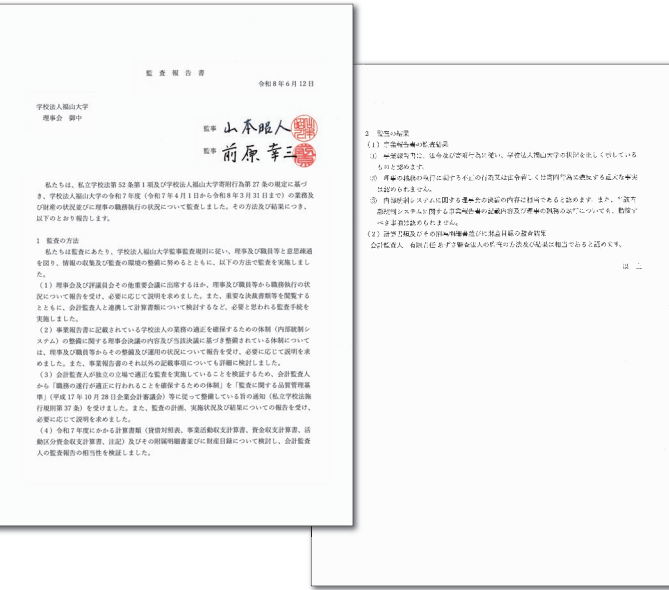
貸借対照表 (令和8年3月31日)(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	55,083,826,060	固定負債	2,378,117,661
有形固定資産	31,711,253,149	長期借入金	624,990,000
土地	6,905,160,619	退職給与引当金	1,647,058,438
建物	16,784,218,539	長期未払金	106,069,223
構築物	669,696,385	流動負債	2,227,974,387
教育研究用機器備品	2,338,265,057	短期借入金	47,760,000
管理用機器備品	21,269,537	未払金	80,187,486
図書	4,986,591,916	前受金	1,728,433,100
車両	677,027	預り金	120,231,148
船舶	5,374,069	賞与引当金	251,362,653
建設仮勘定	0	負債の部合計	4,606,092,048
特定資産	23,335,987,215	純資産の部	
第2号基本金引当特定資産	500,000,000	科目	金額
退職給与引当特定資産	1,647,058,437	基本金	56,208,422,150
減価償却引当特定資産	14,412,905,238	第1号基本金	55,220,422,150
校舎建設等引当特定資産	3,400,969,074	第2号基本金	500,000,000
創設準備引当特定資産	3,375,054,466	第4号基本金	488,000,000
その他の固定資産	36,585,696	繰越収支差額	△ 1,415,836,607
電話加入権	3,048,426	翌年度繰越収支差額	△ 1,415,836,607
施設利用権	600	純資産の部合計	54,792,585,543
保証金	33,316,670	負債及び純資産の部合計	
敷金	220,000		
流動資産	4,314,851,531		
現金預金	3,950,517,598		
未収入金	329,063,795		
有価証券	0		
前払金	35,045,798		
仮払金	224,340		
資産の部合計	59,398,677,591		

貸借対照表

貸借対照表は、年度末における資産、負債、純資産(基本金、繰越収支差額)の状況を示すものです。資金収支計算書と事業活動収支計算書が単年度の収支を示すのに対して、貸借対照表はこれまでの財務状況の積み重ねを示しています。

資産の部	次の有形固定資産、特定資産、その他の固定資産の合計
固定資産	貸借対照表日後1年を超えて使用する有形の資産で、土地、建物、教育研究用機器備品、管理用機器備品、図書、車輛等
有形固定資産	基本金引当特定資産及び各種引当特定資産
特定資産	電話加入権、施設利用権、有価証券等
その他の固定資産	現金預金、未収入金、貯蔵品等
流動資産	
負債の部	
固定負債	長期借入金、退職給与引当金、長期未払金等
流動負債	短期借入金、未払金、前受金、預り金等
純資産の部	
基本金	学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために組み入れた金額で、第1号基本金から第4号基本金があります
第1号基本金	教育活動を行うために取得した固定資産の価額
第2号基本金	将来取得する固定資産の取得に充てる金銭及びその他の資産の額
第3号基本金	奨学金等の基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭及びその他の資産の額
第4号基本金	恒常的に保持すべき資金として別に文部科学大臣の定める額
繰越収支差額	累積の収支状況を示しており、事業活動収支計算書の翌年度繰越収支差額と一致します



事業活動収支計算書 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)(単位：円)

科目	金額
教育活動収支	
事業活動収入の部	
学生生徒等納付金	5,129,294,841
手数料	79,893,747
寄付金	39,717,651
経常費等補助金	1,562,050,718
付随事業収入	49,104,830
雑収入	298,484,806
教育活動収入計	7,158,546,593
事業活動支出の部	
人件費	4,071,143,510
教育研究経費	4,004,173,642
管理経費	368,049,272
徴収不能額等	0
教育活動支出計	8,443,366,424
教育活動収支差額	△ 1,284,819,831
教育活動外収支	
事業活動収入の部	
受取利息・配当金	87,425,496
その他の教育活動外収入	0
教育活動外収入計	87,425,496
事業活動支出の部	
借入金等利息	5,843,878
その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計	5,843,878
教育活動外収支差額	81,581,618
経常収支差額	△ 1,203,238,213
特別収支	
事業活動収入の部	
資産売却差額	0
その他の特別収入	64,648,466
特別収入計	64,648,466
事業活動支出の部	
資産処分差額	2,613,251
その他の特別支出	267,700,000
特別支出計	270,313,251
特別収支差額	△ 205,664,785
基本金組入前当年度収支差額	△ 1,408,902,998
基本金組入額合計	△ 118,131,952
当年度収支差額	△ 1,527,034,950
前年度繰越収支差額	111,198,343
基本金取崩額	0
翌年度繰越収支差額	△ 1,415,836,607
(参考)	
事業活動収入計	7,310,620,555
事業活動支出計	8,719,523,553

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、毎会計年度の3つの活動(教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動)に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金に組み入れる額を控除した会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入と事業活動支出の均衡の状態を明らかにするためのものです。

科目の説明	
事業活動収入の部	
学生生徒等納付金	授業料、入学金、実験実習料等の収入
手数料	入学検定料、休学者在籍料、各種証明書の発行手数料等の収入
寄付金	資金収支の寄付金収入に現物寄付を加えた額(施設設備に係る寄付は除く)
経常費等補助金	国や地方公共団体から交付される補助金収入(施設設備に係る補助金は除く)
付随事業収入	補助活動、附属事業、受託事業による収入
雑収入	上記以外の収入で学校法人の負債とならない収入
受取利息・配当金	預金、有価証券等の利息や配当金による収入
その他の教育活動外収入	収益事業等からの収入
資産売却差額	資産売却収入が当該資産の帳簿価額を超えた場合の超過額
その他の特別収入	施設設備に係る寄付金、補助金及び過年度修正額による収入
事業活動支出の部	
人件費	教職員人件費、役員報酬、退職金、退職給与引当金繰入額、賞与引当金繰入額として翌期支給予定の賞与のうち、当期分を計上
教育研究経費	教育研究活動に要する経費で、消耗品費、光熱水費、旅費交通費、奨学費、通信費、印刷製本費等の支出に減価償却額を加えたもの
管理経費	教育研究活動以外の経費で、管理運営、学生募集等に要する支出に減価償却額を加えたもの
徴収不能額等	前年度以前に計上した未収入金等で、当年度において回収不能と判断したもの
借入金等利息	借入金及び学校債の利息に係る支出
その他の教育活動外支出	為替差損等に係る支出
資産処分差額	資産売却収入が当該資産の帳簿価額を下回った場合の差額及び資産を売却した場合の除却損
その他の特別支出	会計基準の改正により特別に計上する退職給与引当金特別繰入額、賞与引当金特別繰入額

その他の項目	
基本金組入前当年度収支差額	当年度における教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の全ての収入と支出の差額
基本金組入額合計	第1号基本金から第4号基本金の当年度繰入額
当年度収支差額	基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を控除した当年度の収支差額
前年度繰越収支差額	前年度までの累積収支差額
基本金取崩額	基本金を取り崩した場合の額
翌年度繰越収支差額	前年度繰越収支差額に当年度収支差額と基本金取崩額を加えた額で翌年度に繰り越す収支差額
事業活動収入計	当年度の事業活動収入の合計
事業活動支出計	当年度の事業活動支出の合計

令和7年度(2026年3月卒業生)の就職結果

15年連続
99%以上達成

就職内定率

確かな就職実績を達成!

100%

令和7年度の本学卒業生は238名が就職し、就職率100%を達成しました(令和8年5月1日現在)。これは令和の時代に入って、令和3年度、令和5年度に続く成果であり、本学の高い就職実績を改めて示す結果となりました。

就職先を地域別に見ると、広島県内が56.3%と最も多く、次いで中国地方(広島県を除く)が14.3%となっています。中国地方全体では約7割を占めており、多くの卒業生が地域社会を支える人材として活躍しています。そのほか、関東が12.2%、近畿が7.1%、四国が4.2%、九州・沖縄が3.8%、東北・北海道が1.3%、中部が0.8%となっています。

業種別では、医療・福祉分野が39.1%で最も多く、教育・学習支援業17.6%、卸売業・小売業10.1%、製造業9.2%が続きました。これら4業種だけで就職者全体の76.0%を占めており、本学で培った専門性が幅広い分野で生かされています。

近年は少子化による若年労働人口の減少を背景に、多くの業界で人材確保が課題となっており、大学生の就職環境は引き続き学生優位の「売手市場」が続いています。こうした状況の中でも、本学は高い就職実績を維持しています。広島労働局の発表によると、令和8年3月末現在の広島県内大学生の就職率は96.6%で、過去最高だった令和6年3月卒業生と同率でした。また、厚生労働省・文部科学省の公表による令和8年3月大学等卒業生の大学生就職率は98.0%となっており、全国的にも高い水準を維持しています。

本学は建学の精神にしたがい、「地域に貢献する人材の育成」を目指しています。そのため、学生一人ひとりの成長を丁寧に支援しています。そこで、設置する5学科それぞれで実践的な学びを重視し、地域社会や産業界のニーズに応える力を育てています。今回の高い就職実績は、そうした教育の成果に加え、卒業生が各地域や各業界で積み重ねてきた信頼と実績によるものでもあります。

今後も本学は、きめ細かなキャリア支援を通じて学生の夢の実現を後押しし、「就職に強い福山平成大学」としての評価をさらに高めてまいります。

OPEN CAMPUS 2026

本学では、高校生・保護者の皆さまを対象に、本学の学びや魅力を体験していただけるオープンキャンパスを開催しています。当日は、学科紹介や入学者選抜制度説明をはじめ、模擬講義・実習体験、施設見学、在学生との交流などを実施し、本学での学びや学生生活を知っていただけるプログラムを用意しています。学科教員の指導のもと、学生スタッフが中心となって運営しており、高校生や保護者との交流も本学の特色の一つです。参加者アンケートでは、学生との交流に高い評価をいただいています。2026年度第1回オープンキャンパスは、6月20日(土)に開催いたしました。第2回以降も引き続き開催を予定しており、高校生・保護者の皆さまに本学の魅力を直接感じていただける機会として実施してまいります。



第2回以降は下記の日程で開催いたします。

7月19日(日)・8月22日(土)

9月 5日(土)・2027年3月13日(土)



御幸五訓

- 一、真理を求め、道理の実践を志向する。
- 二、豊かな品性と魅力ある個性を伸ばす。
- 三、不屈の魂を養い、紐帯性を培う。
- 四、生命を尊重し、自然を畏敬する心情を育む。
- 五、誠実と倫を胸に刻み、夢の実現に挑む。

編集 福山平成大学広報委員会(学報作成部会)

発行 福山平成大学 発行日 2026年7月20日

福山平成大学

〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸117-1

TEL 084-972-5001(代表) FAX 084-972-7771 <https://www.heisei-u.ac.jp/>